



GW明けからの展望 ～得意を伸ばし、苦手を減らす～

<第1学年> 西高生になる ～基礎・基本の確立～

第49期生 1年生の皆さん、5月が始まりました。進路実現の7割は1年時で決まります。
西高での生活が本格化する中で、特に大切なことは、生活のリズム＝生活習慣を作ること！ポイントは、次の3点です。

- ①睡眠時間は6時間はとること。
- ②(三点固定) 毎日同じ起床時間・朝食時間・就寝時間
- ③家庭学習は予習・復習に平日学年+1(2時間)は確保したい。

今月末には、高校最初の考査「中間考査」があります。そして7月・11月模試の長期学習計画を視野に入れましょう。考査や模擬試験は、学習の定着具合や今の力を測るものである以上に、それを通じて学力をつけるためのものです。事前の準備、事後の復習をしっかりと行って力をつけていきましょう。スタサポの復習を確実に。小テストもしっかり。今できることは徹底した復習です。

<模試> 校外模試もチャレンジしましょう。進路指導室前に申込書があります。

1年生7月進研模試 → 1年7月模試3教科成績を2年11月までキープ+ α

- ・3年後の志望大学を意識し、デジタルサービスで目標得点を設定。
- ・自己採点を行い、解答解説をしっかりと活用する。

★**1年生11月進研模試** → **1年の重要模試** 4月からの初期指導の結果を学力で残し、継続する

- ・7月よりも偏差値を上げることがポイント。
- ・この模試の偏差値を2年11月までキープできるかが学力面での鍵となる。
- ・自分の弱点を再度確認するように、振り返りを徹底する。

<第2学年> 勝負の2年生 ～大学入学共通テストレベルの完成～

第48期生の皆さん、熊谷西高校の中心学年として学校を運営する2年生を迎えました。学校行事・部活動をはじめ、あらゆる部分で西高の中核を担います。一方、学習は文理に分かれて、より「専門的に」「深く」なってきます。理科・地歴公民が本格的に開始します。思考力・判断力・表現力の向上を意識し、より深い学習をしましょう。その上で、家庭学習を平日最低学年+1時間＝3時間確保！今年度は、「予習→授業→復習」という黄金サイクルの実行はもちろん、+ α の自学自習をしっかりと行ってください。「気がつけば、3年生！」では取り返しがつきません。加えて日々の取り組みのスピードを意識して欲しい。受験では入試解答を含めてスピードが結果を大きく左右します。この1年間、1日1日を充実させることで「人間力」が鍛えられます。そうして身についた「人間力」は、3年次に皆さんの大きな支えとなります。それが受験に直接つながっていきます。スタサポの復習を確実にしましょう。2年模試は、7月、11月を焦点に長期学習計画を！

<模試> 校外模試もチャレンジしましょう。進路指導室前に申込書があります。

2年生7月進研模試 → 2年7月3教科偏差値を、11月、1月模試でキープ+ α

- ・スタサポの結果を上手く活用する。
- ・1年1月の結果と合格ラインを使って志望校を選択する。
- ・夏休み中にデジタルサービスで結果を確認し、弱点補強を各自で行う。

<7月模試からのポイント>

7月模試の成績を受けて、振り返りを行い、夏休みに基礎力を補強し、11月模試において、3教科平均偏差値2ポイントアップを目指す。またGTZ（学習到達ゾーン）で、Aランク以上を目指す。

★ **2年生11月進研模試** → **2年での最重要模試** 結果を出したい

- ・5教科になるだけでなく、英数国の学力の指標が試されるポイントとなる重要な模試。
- ・理社の模試後の復習をしっかりとる。
- ・3年10月記述模試で「-1」ポイントまでに抑えられるように。

<第3学年> 受験は団体戦 ～第一志望を貫徹する～

第47期生の皆さん、受験の1年がスタートしました。主に国公立型5教科勝負を意識してきた生徒も多いと思いますが、いよいよ本格的に始動していきます。全国50万人との戦いに入っていくのです。3月まで、志高く、絶対に第一志望は譲らない強い意志を貫徹してほしいと思います。部活動をしている人は、「引退してから本格的に受験勉強」と考えている人は、間違いなく出遅れます。むしろ「引退までに何をするか」が勝負を分けます。少ない時間を最大限効果的に使う工夫をしてください。隙間時間を大切に。弱点補強とともに、毎回の考査を受験勉強の確認と位置づけてください。これまでの進路学習で志望は固まっていると思います。志望大学の入試はどのようなものなのかを確認しましょう。どのような問題が出題されるのか、進路資料室の赤本で確認しましょう。

部活引退までの両立にむけて ①やるべき事を溜めずに均等なペースで学習する ②部活動が終わったらすぐに次の行動に移る ③休日の部活動前後の時間を有効に使う（部活から帰ったらまず机に向かう。）まずは6月模試に全力を！ 模試復習を欠かさない。自習室の蛍雪時代を見てみましょう。

<模試> 各予備校の全国模試(記述・マーク)、難関大模試も積極的に受験すること。(進路室前)

★ **3年6月ベネッセ共テ模試** → **入試本番との相関関係あり** 4月～6月のスタートダッシュの成果

- ・基礎学力を調べる重要な模試。入試本番との相関関係がある模試とされている。（本番レベル）
- ・4月～6月の受験勉強のスタートダッシュの成果は？
- ・3年の模試は、今まで以上に復習を徹底させることを意識する。

★ 6月模試に全力を！！ → <6月模試からのポイント>

6月マーク模試の結果は、本番の大学入学共通テストと相関関係がある。9月のマーク模試で6月マーク模試の偏差値を維持向上させる。記述力養成の総決算を3年7月記述模試とし、10月の記述模試はドッキング判定される最重要模試であり、7月記述模試からの偏差値下げ幅を最小限にしたい。

3年7月ベネッセ総合学力記述 自己採点と振り返りを重要視し、夏休みの計画に反映する。

★ **3年9月駿台ベネ共テ模試** → 重要模試 6月マーク模試の偏差値をキープ+ α したい

- ・夏休みの成果を出したい。
- ・受験後半戦に向け、生徒の実力を見定める重要な模試となる。
- ・6月マークの偏差値をキープ+ α できることを最大目標とする。
- ・出題形式に慣れ、自己採点を元に、残り3ヶ月の具体的な勉強の方針を立てる。
- ・苦手科目の「分野別」復習を行う。この模試から本番と同レベルで作られている。6月より5%得点率が上昇できるはず。
- ・自分の力を客観的に分析し、出願予定大学の視野を広げ始める時期でもある。

★多くの西高生のスタイルでもありますが、最も効率の良い考え方は、「国公立大学を第一志望として共通テストおよび二次試験での得点力アップを目指しながら、併願で私立を出願する」ということです。 国公立大学の二次試験対策は、私立大学の独自試験の対策になります。